

新潟県

教育月報

臨時増刊号

臨時増刊号
平成21年12月 7 日発行
編集人、発行人
新潟県教育委員会

< 今号の記事 >

オンリーワンスクールの取組について

----- P 1 ～ 4

オンリーワンスクールの取組について

高等学校教育課

はじめに

児童生徒がより主体的に学校を選択することができるよう、すべての県立高等学校、県立中高一貫教育校は、自校の魅力をより一層明確にしたオンリーワンの学校づくりに取り組んでいます。

その取組を推進し、本県的高等学校教育及び中高一貫教育の活性化を図るため、県教育委員会では、パイロット的な役割を担う12校をオンリーワンスクール研究開発校として指定しています。

研究開発校は、特色ある学校づくりを推進

し、その取組成果をホームページで公開するとともに、研究成果報告書を作成し、すべての県立高等学校、県立中高一貫教育校の学校づくりの推進役を果たします。

研究開発校の主な取組内容は下表のとおりです。本号では、研究開発校12校のうち、3校の状況を紹介します。

その他の学校については、高等学校教育課のホームページ「オンリーワンスクール推進事業」(<http://www.pref.niigata.lg.jp/kotogakko/1247774474603.html>)、または、各学校のホームページを御覧ください。

【オンリーワンスクール研究開発校】

学 校 名	主 な 取 組 内 容
新 発 田 農 業 高 校	しばのう 「芝農」ブランドの商品開発、地元で生産した原材料を使った加工品開発
豊 栄 高 校	オリンピック選手等著名な選手、指導者による講演、実技指導、中高合同練習会
新 潟 北 高 校	豊かな人間性の育成に向けた県立幼稚園との交流や県立大学教授による講義
新 潟 商 業 高 校	国際社会や経済界で活躍する外部講師による講義・講演会、留学生等との英語交流
新 津 工 業 高 校	たくみ 匠と呼ばれる高度熟練技能者の技術指導、小・中学生に対する「ものづくり」の実演
長 岡 商 業 高 校	模擬株式会社の設立、全国の商業高校との電子商取引、地域イベントでの販売実習
八 海 高 校	陸上部や水泳部などにおいて著名な指導者による講演、実技指導、中高合同練習会
柏 崎 総 合 高 校	大学・企業等外部講師の講演や農業、家庭、商業系列の連携した商品開発と販売実習
柏 崎 工 業 高 校	被災体験を受け継ぐ学校行事、大学教授による講義、防災関連の学校設定科目の研究
高 田 高 校	O B の職場・研究室訪問、中学生との学び合いの実践、大学教授による高大連携事業
有 恒 高 校	中学校と連携し、学習での「なやみ、つまずき」解消に向けた研究と教材作成
佐渡中等教育学校	地域から学ぶ「能楽」講習、地元の環境保全団体と連携した環境保護活動への参加

県立柏崎工業高等学校の取組

1 研究概要

今年度の入学生から、新設された「防災エンジニアコース」を2年進級時に選択できるようになったことを受け、学校全体で「防災マインドの育成！ー工業高校の特色を活かした防災教育ー」をコンセプトに、防災に関する学校設定科目の研究開発を進めるとともに、防災、減災の視点を取り入れた学校行事、体験学習などの特色ある工業教育の推進に取り組んでいます。

2 これまでの主な取組状況

(1) 「防災を考える」講演会

4月13日、柏崎工業高校OBで、柏崎消防署に勤務する救命救急士の小池勝己氏を迎え、「防災を考える」と題して講演会を開催しました。危機管理から最新理論に至るまで、具体的な事例を基にした、貴重なお話を聞くことができました。

(2) 地震災害を想定した避難訓練

6月17日に実施した避難訓練は、前年までの火災を想定したものから、地震を想定した内容に変更しました。

学校で独自に作った地震の音を流し、避難放送を開始。「効果音で地震の時のことを思い出した」

「いざという時に、自分自身を守るための知識を学ぶことができた」など、自らの被災体験を前向きにとらえる意義深い1日となりました。



【避難訓練の様子】

(3) 「震災メモリアルデー」被災体験学習

2年前の中越沖地震が発生した同じ日時の7月16日10時13分に、柏崎市全市を挙げて黙とうが実施されました。柏崎工業高校も「震災メモリアルデー」として授業を中断し、全生徒・職員で黙とうをささげました。

また、この日にあわせ、生徒等に防災意識を喚起させるための体験学習を行いました。

震災による「断水を想定して水道を使わず、飲み水を持参」「停電を想定して昼休みは消灯」

「携帯電話の不通を想定して電源を切る」など被災直後の疑似体験をして、震災当時を振り返りながら体験学習をしました。「地震を思い出すと胸が痛くなるが、日ごろの防災意識が大切」「災害時などに人の役に立てる職業に就きたい」など、生徒たちの防災意識を高めることができました。

(4) 大学での講義体験等

① 1年生全員が、7月27日に地元の新潟工科大学に訪問し、「災害時の情報通信の確保策」などの防災技術に関する講義を受けました。中越沖地震の時に、通信状況が混乱した様子を改めて知ることができました。

② 1、2年生の進学希望者が、8月25日に新潟大学、26日に長岡技術科学大学へ訪問し、防災技術に関する講義を受け、施設見学を行いました。大学では、様々な分野で防災技術の研究をしていることを知ることができました。

③ 教員が、全国的にも珍しい環境防災学部を持つ富士常葉大学や、防災技術の指導を先進的に行っている東海大学工学部の視察を行い、防災マインド育成に向けた学習指導のヒントを得ることができました。

3 今後の予定

これまでの取組により、生徒の防災に対する意識や学習意欲が高まり、1年生のコース選択予備調査で、予想を超える多くの生徒が防災エンジニアコースを希望しています。

今後も、講演会やこれまでの取組成果の発表会を行うとともに、防災エンジニアコース選択者を対象に、防災体験や被災地救助を想定した宿泊野外体験学習など様々な取組を通して、生徒の防災マインドの育成に取り組んでいきます。

県立豊栄高等学校の取組

1 研究概要

豊栄高校では、2年生から興味や適性等に応じてスポーツコースや芸術コースなどの5コースに分かれるコース制を取っています。

「思いっきり部活動！ 思いっきり青春！」

をコンセプトに、部活動を活性化させ、明るく楽しい学校生活を送り、心身ともに健康な生徒をはぐくむ全人教育の充実を目指す教育活動を実践しています。

2 これまでの主な取組状況

(1) 全校生徒への啓発

～オリンピック選手講演会～

9月16日に柔道オリンピック金メダリストの古賀稔彦氏をお招きして、講演会を実施しました。古賀氏は、バルセロナオリンピックで金メダルを獲得した時の話や、アトランタオリンピックの決勝で負けた時の挫折、そして周囲の支えによって立ち直れた話などをされました。そうした経験の中から、「高校生として学業や部活動にどのように取り組むべきか」ということについて、熱く語っていただきました。



【古賀稔彦氏の講演会】

生徒からは、「人間は一人で生きているのではないと思った」「今、柔道ができるのは周囲の人たちの支えがあるからだと改めて感じた。感謝の気持ちを忘れず、練習に励んでいきたい」などの感想が聞かれました。

講演後、柔道部全員が、古賀氏から直接、実技指導をしていただきました。古賀氏の丁寧で分かりやすい指導を受け、一生懸命に技をかけあう姿が見られました。なお、柔道部部員のうち、4名がトキめき新潟国体柔道競技に出場し、4位入賞に貢献しました。

(2) 文化部活性化の取組

芸術コースの美術選択者と美術部の生徒が、トキめき新潟国体柔道競技に出場する各県の選手を激励するのぼり旗を作成しました。生徒た

ちの思いを込めて作成したのぼり旗は、大会期間中に豊栄総合体育館に掲げられました。



【のぼり旗の作成】

(3) 運動部活性化の取組

11月18日に、運動部員やスポーツコース選択者を対象に、早稲田大学スポーツ科学学術院准教授の倉石平先生による科学的なトレーニング方法の研修会を行いました。

3 今後の予定

美術部では、地域と連携した農業と家族をテーマとした壁画を作成しています。また、社会部と理科部では、共同で、住みよい町づくりの研究や自然環境の観察を行い、吹奏楽部とJRC*部、家庭部では、福祉施設でミニコンサートや読み聞かせを実施する予定です。

これらの取組を通して、明るく楽しい学校生活を生徒が送れるよう取り組んでいきます。

※JRC：青少年赤十字

県立佐渡中等教育学校の取組

1 研究概要

佐渡中等教育学校は、本県7番目の県立中高一貫教育校として開校しました。

『佐渡』から世界へ大きな波を発信！～知性・人間性・郷土愛をはぐくみながら、大きな成長へ～」をコンセプトに、郷土を愛し、地域に貢献する態度を育成しています。

2 これまでの主な取組状況

(1) スクール・カルチャー「能楽」の取組

1・2年生全員が、佐渡の伝統芸能「能楽」を、総合的な学習の時間の中で学んでおり、現在、謡を中心に学級や学年で練習しています。

その取組の一環として、7月26日の本間家定例能に1・2年生全員が参加しました。

2年生全員が舞台上がり、「竹生島」の連吟を披露しました。地域の皆様や観光客からは、

大きな拍手を頂きました。

1年生も、学校で練習している謡「羽衣」を
目の前で鑑賞することができました。

生徒からは、「初めの練習ではあまり声を出せず、すぐ足が痛くなった。でも、日々練習を重ねていくうちに声も出るようになり、正座もあまり痛くならなくなった。本番は緊張したけれど、堂々と発表できた」「自分が舞台上がるなんて思っていなかったが、貴重な体験ができてう



【本間家定例能に出演】

れしかった」「将来、もし外国の人と交流するときなどに、日本にはこういう文化があるということをお伝えされると思った」などの感想が聞かれました。

(2) 佐渡の環境を考える取組

地域を知り、地域に貢献するために、身近な加茂湖やトキの生育に適した環境を学び、佐渡の将来の環境を考える活動に取り組んでいます。

その一環として、島内で実施されている「トキの島再生研究プロジェクト」の研究チーム「トキと社会」と連携し、プロジェクトの1つである自然再生の研究「加茂湖水系再生プログラム」を実践しています。

この研究チームには、大学関係者や地域、行政関係者が参加しており、より専門的に、より広い視野で学ぶ絶好の機会となっています。

8月1日に「トキと社会」研究チームと共同で、「加茂湖エコウォーク」を実施しました。「加茂湖コース」と「天王川コース」に分かれ、ゴミを拾いながら、研究チームの専門家の方から説明を聞きました。

東京工業大学の桑子教授からは、河川の再生について、また、環境省自然保護官からトキ放鳥について興味深い説明を受けました。

生徒からは、「加茂湖のイメージはカキだと思っていたけど、いろいろな生き物がいてびっくりした。中でも新種のカエルは見たことがない色のカエルだったので面白かった。また、自

然再生の川づくりの話を聞いて、もっといろいろな生き物が増えるといいと思った」「植物や生き物などが豊かに暮らせるようなゴミの少ない環境にし、佐渡にしかない「カエル」や「トキ」が、これからずっと佐渡にすめるような環境にしたい。佐渡【加茂湖エコウォークの様子】の自然を大切にして、これからも暮らしていきたい」などの感想が聞かれました。



3 今後の予定

2月には、保護者や地域の方々に対し、「能楽」や加茂湖再生プログラム事業の学習成果の発表会を行う予定です。

また、海外の高校生との交流や今後予定している海外研修の場で「能楽」を発表するなど、郷土の伝統文化の発信を行っていきます。

今後も地域と連携し、郷土を愛し、地域に貢献する態度を育てていきます。

おわりに

本号で紹介した学校以外の研究開発校でも、地域の熟練技能士による実技指導や自校ブランドの商品開発・販売活動を実施するなど、様々な取組を行っています。



【新津工業高校 鍛冶道場での実習】

また、研究開発校を含むすべての県立高等学校、県立中高一貫教育校で、地域と連携した特色ある教育活動に取り組んでいます。

今後、研究開発校のホームページや報告会などを参考にして、各学校の取組をますます充実させることが期待されます。

発行所 新潟県教育庁総務課
所在地 〒950-8570
新潟市中央区新光町4番地1
電話 025-280-5587 FAX 025-285-3766
E-mail ngt500010@pref.niigata.lg.jp
HP版URL http://www.pref.niigata.lg.jp/kyoikusomu/
本紙に関するご意見がありましたら、お寄せください
<無断転載を禁ず>